

地球温暖化対策・施策の検討に関する演習

環境省

1. 演習の実施要領

次頁以降に示す施策事業は、ある自治体A市で、地球温暖化対策として推進されています。この施策事業について、以下の順序に従い検討してください。

【STEP1：事業の仕組み】

事業について、以下の視点について検討し、図「環境基金のしくみ」に矢印やコメントを追加してください。

①仕組み

：誰がどのような役割を担っているか、また、資金とエネルギーはどのように流れているかを検討して、図に書き加えてください。

②主体

：事業に係る主体のメリット、及びデメリットは何ですか。図の点線以外の主体について検討し、各主体の隣に書き加えてください。

※図に出ていない主体についても、関係すると想定される場合は検討対象とし、書き加えてください。

③CO2削減

：CO2が削減されるのは、どの部分ですか。図に書き加えてください。

④課題

この事業の仕組みにおいて、どのようなことが課題と考えられますか。

【STEP2】

地域への波及効果についての検討を行います。

講師の説明に従って進めてください。

2. 事例

【自然エネルギーを活用した環境基金の仕組み】

【事業の概要】

【準備段階】

A市では、自然エネルギーの活用と森林整備の推進を目的として、風力発電事業を計画し、風力発電設備を2基導入しました。

1年目は、「地域新エネルギービジョン」を策定して、賦存量を調査しました。2年目に風況調査及び環境アセスメントを実施し、周辺の景観、動植物、騒音等の問題について調査し、設置場所を確定しました。3年目に風力発電設備の設置、送電線の設置を行いました。また、自治体内に「新エネルギー推進室」を新設し、2名の専属職員を配置すると同時に、風力発電の売電益を地域の環境活動に還元できるように、「環境基金」の設置のための条例を制定しました。

このような過程を経て、4年目から発電を開始しています。

【運用段階】

発電量は電力会社に売電し、売電益の一部を自治体が設置した環境基金に積み立てています。この環境基金を活用し、市民の太陽光発電設備の設置補助事業及び、森林整備交付金事業を実施しています。

【風力発電設備について】

- ◆風力発電の総工費：約4億円（本体工事：約3億円、電線工事：約1億円）
※総工費のうち、半額を「地域新エネルギー等導入促進対策費」による補助金で賄っている。
- ◆年間維持管理費：約500万円
- ◆平均発電量：約3,000MWh
- ◆発電能力（600kw×2基）
- ◆年間平均売電額：約4,000万円

【環境基金を活用した補助事業について】

- ◆太陽光発電設備補助事業：補助額：5万円／1kw、上限20万円
- ◆森林整備交付金事業：10万円／ha
※森林所有者と町が協定を結び、間伐を実施する仕組みとしている。
対象は5ha以上の森林とし、10年間皆伐禁止、環境に配慮した施業とすること等を条件としている。

【自治体のプロフィール】

- ◆人口：約3万人 世帯数：1万7千世帯

環境基金の仕組み

